

県央

50号特集 ■ 各地域協議会のあゆみ

県央協議会副会長インタビュー



堀田哲郎副会長

機関紙「つばさ」第50号特集として、当協議会では、厚木市青少年指導員連絡協議会会長でもある堀田副会長にお話を伺いました。

青少年にかかわる活動への参加のきっかけは？

自分の子どもが小学校に入学したこと、義兄が地区内で活動していて、誘われたのがきっかけです。私は地方の出身なので、地域に溶け込むために何か役をやらなければと考えてもいました。

厚木の会長になられて一番心がけてきたことは？

引くか出るか迷った時には必ず出ることにしています。あとは威張らないこと。

青少年に対してはどういう姿勢で接していますか？

立派に考えをもっている大人として対等な立場で接して、責任感を持っていただくことが大事だと考えています。自分がいなければこの行事は成り立たないんだという意識を持っていただくようにしています。

嬉しかった経験は？

毎年成人式に参加していますが、活動の中で知り合った子に声をかけてもらったりします。結婚式後のパーティーに呼んでもらったこともありました。

悩んだことはありますか？

相談を受けて困っていると思うと、何とかしなきゃとその悩みを共有してしまうと大変です。

県央協議会の活動については？

定例会議などの後の席で話をするると色々アイデアが出てきます。しかしなかなか実現しない。一つの場所に集まってイベントを開催するというのは結構大変なんですね。各市町村で同じ日にパトロールでもなんでもいいと思うのですが、何かやろうよという話はでています。同じ日に実施できたらキャンペーンとして成立するのではないかなと思います。

今の子どもたちをどう思いますか？

子どもたちは基本的には昔と変わっていないと思います。親が変わったかなと思います。親への対応、私たちが会議をしていると最後は必ずそこにいくんですよ。

最後に一言お願いします。

県央地域はとても広いので、この地域の良さを生かしたつながり、絆というか、そういうものを大切にしていきたいと思っています。今後とも行政とうまくタッグを組んで進めていきたいと思っています。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。



飯山白山森林公園「厚木飯山桜まつり」